

令和3年度 事業計画・報告

特定非営利活動法人 color

1. 児童発達支援センター 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援 居宅訪問型児童発達支援	児童発達支援センター くるーる
2. 児童発達支援事業 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援 就労継続 B 型	みずたま
3. 相談支援事業 特定相談支援事業 障害児相談支援事業	相談支援センター さくら
4. 日中一時支援事業	そらのいろ そらのいろ・くるーる
5. 基本相談 高梁市障害者相談支援事業 巡回支援専門員整備に係る業務委託	たかはし障害者総合相談センター レイユール 相談支援センター さくら たかはし発達障害者支援センター
6. 放課後児童健全育成事業	まーぶる
7. 学習支援塾	さいさい
8. その他法人事業 自発的活動支援事業	いろいろ

1. 児童発達支援センター くるーる

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
①児童発達支援	月～土曜日	9:00-15:30	24人
②放課後等デイサービス	月～土曜日	9:00-15:30	24人
③居宅訪問型児童発達支援	月～土曜日	9:00-15:30	
④保育所等訪問支援	月～土曜日	8:00-17:30	

(2) 各事業目標および結果

【計画・目標】	【結果】
① 児童発達支援	
利用目標人数(延べ)： 6,808人	利用人数:6,517人 契約人数: 82人
保護者のニーズを聞き、課題の整理を行う。個々に合わせた支援が実施できるように、スタッフ間で情報を共有する。必要に応じて事業所内相談を行い保護者の不安の軽減につながるようにする。定期的に集団での事業所内相談を行う。就園、就学に向け関係機関と情報共有しながら移行支援を行う。	保護者のニーズを聞き、課題になるところに視点を置き目標達成に向け取り組んだ。目標達成にならなかったことに対して修正を行い、再度目標を設定し取り組むことができた。集団での事業所内相談は計画的に取り組むことができなかった。定期的にスクラム会議を行い、園や学校と情報共有し、課題となるところを明らかにし、同じ方向で支援をしていくことができた。
② 放課後等デイサービス	
利用目標人数(延べ)： 208人	利用人数:455人 契約人数: 23人
学校等の様子を確認しながら保護者のニーズを聞き取り個に応じた支援を行う。年齢に合った支援が提供できるように課題の整理を行う。	保護者のニーズや学校での様子を保護者やスクラム会議で先生から聞き、支援計画に反映させ個々の目標達成に向け学校での生活を想定しながら取り組むことができた。
③ 居宅訪問型児童発達支援	
利用目標人数(延べ)： 1人	利用人数: 0人 契約人数: 0人
通所施設を利用できない児童がいれば受け入れをしていく。地区担当保健師や医師と情報共有をする。	保健師と情報共有していたが、対象となる児童がおらず利用実績はなかった。
④ 保育所等訪問支援	
利用目標人数(延べ)： 300人	利用人数:174人 契約人数: 23人
保護者や園、学校からのニーズを聞き、園や学校での様子を確認し、事業所で取り組めることを整理し、支援していく。事業所での取り組みを園や学校に情報共有し、取り入れてもらえるものがあれば活用し、集団生活へ適応できるように支援していく。	保育所等訪問支援スタッフが専属に配置されていたため、園や学校、家庭との連絡がスムーズに行うことができた。保育所等訪問を定期的に行うことができた。園や学校と連携を取りながら療育で取り組み、園や学校で療育と同じ方法で支援することができた。

(3) スタッフ研修(くるーる内会議)

実施計画:第2・4 土曜日	第2・4 土曜日
<ul style="list-style-type: none">・くるーる内で課題を確認することにより、スタッフ間で支援方法を共有することができるようにする。・業務内容を確認し、業務分担をすることにより時間内で効率的に業務を終えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・くるーる会議は定期的を開催することができた。確認事項や協議事項などスタッフ間で共有することができた。また、スタッフからも全体に協議しなければならないことが挙げられるようになった。・くるーる会議で業務分担を伝えたことで業務時間内に終わることが増えてきた。

(4) 関係機関連携

スクラム会議 250回/年 実施予定	実施回数 169回(会議加算分のみ)
<ul style="list-style-type: none">・関係機関と情報を共有し、子どもや家族の課題を確認する。それぞれの場面での子どもの姿を確認するとともに、くるーるで実施している支援方法についての情報提供を行う。	<ul style="list-style-type: none">・定期的にスクラム会議を行ったり、必要に応じて関係機関と連絡を取ったりしていき情報を共有し、支援に繋がっていくことができた。

2. みずたま

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
①児童発達支援	月～土曜日	13:00～19:00	10名
②放課後等デイサービス	月～土曜日	13:00～19:00	10名
③保育所等訪問支援	月～土曜日	8:00～18:00	
④就労継続支援B型	月～土曜日	9:00～15:00	15名

(2) 各事業目標

①児童発達支援	【結果】
利用目標人数(延べ): 63人/年	利用人数:53人 契約人数: 3人
移行時のスクラム会議でしか園との情報を交換機会がなかったため、園への訪問も要望に応じて実施し関係機関との情報交換の機会を増やしていく。現状の課題を多方面から見て、探っていけるようにしていく。	訪問の機会は無かったものの、送迎時の際に園での様子を聞くことができたり、保護者対応の際に家での様子を聞いたりすることで、より多くの場面の情報を得て、支援に活かすことができた。
②放課後等デイサービス	
利用目標人数(延べ): 3,256人/年	利用人数:3,637人 契約人数: 91人
利用児にとって何が必要なのかを探るため、利用児の今後の進路や少し先の見通しを持った上で、今の課題を探っていく。そのための本人や保護者の気持ちや捉えをしっかりと聞き取りを行っていく。	保護者や学校と現状と進路を見据え、何がどこまでできた方が良いかを情報を交換しながら、療育の役割を考えて支援することができた。利用児の年齢が上がってきているので、自立を見据えて支援が必要になってきている。成人期までに何ができておくべきかが明確にしておく必要がある。
③保育所等訪問支援	
利用目標人数(延べ): 25人/月 300人/年	利用人数:112人 契約人数:44人
ニーズを十分に把握した上で、スタッフ間で訪問時の様子や課題、次回することなどより具体的に話し合いを行い、どのスタッフでも同じ支援や学校の先生と話ができるようにする。 放課後に電話などで話し合いの時間をしっかり設ける。	訪問時に先生が話す時間を設けてくれることもあり、具体的な支援の方法など共有することができた。できるだけ、利用の直前で訪問に行き、療育の際に振り返りがしやすいように調整していた。療育で振り返った本人の捉え・保護者の話など学校の先生に伝えることで、学校で本人に配慮してくれることも多かった。今後、訪問スタッフのスキルも向上させていきたい。
④就労継続B型	
利用目標人数(延べ): 45人/月 879人/年	利用人数:47人 契約人数:3人
利用者の特性を把握し、仕事の提供をすることができるようになる。 企業への働きかけを行い、新しい仕事をもらえるように働きかけるとともに、その後の就職へつなげるようにする。 新規事業についての広報を行う。	新規の利用者の確保が難しかった。契約に繋がっても、精神的な面の支援が上手いかず、継続的な利用になりにくいこともあったが、話をする時間を設けることで少しずつ利用に繋がることも増えた。障害の分野だけでなく、もっと広く活動を広めていきたい。

(3) スタッフ研修(みずたま内会議)

<p>次回の場面設定の内容について意見を出し合い、具体的に決めていき、スタッフ間の捉え違いがなないようにしていく。</p> <p>全体の研修では、より多くの意見やスタッフとの関わりの中で、知識など深めていく。</p>	<p>引継ぎの際に計画をみんなが見ることができるようにすることで、取り組み段階が明確になり、支援計画から逸れにくくなった。手立ての作成も図式化して提示することで、誰でも作成できるようになり、作業の分担につながった。</p>
--	---

(4) 関係機関連携

<p>スクラム会議 230回/年 実施予定</p>	<p>実施回数 209回/年(会議加算分のみ)</p>
<p>直接先生や関係機関の話を聞いたり、療育での様子を伝えたりすることで情報の共有を図るため、できるだけ色々なスタッフが参加できるようにしていく。</p> <p>また、その時の情報をスタッフ間でしっかり共有し、支援につなげていく。</p>	<p>前半は色々なスタッフが行くことができたが、後半は配置上固定され、難しかった。しかし、会議での情報を療育だけでなく、日中一時支援や学童などと共有することで、より多くの場面で同様の支援を心掛けることができた。</p>

3. 相談支援センター さくら

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間
①特定相談支援事業	月～土曜日	9:00～17:00
②障害児相談支援事業	月～土曜日	9:00～17:00

※上記以外の時間については、携帯電話で対応する。

(2) 各事業目標

①特定相談支援事業	【結果】
契約目標人数： 15人(継続も含む) ・就労継続 B 型の新規事業も含め、成人期の相談支援を受けることができるようにする。そのために、他事業所の相談員からもどのような計画を求められているのか	契約人数： 12 人 ・成人期の計画については伸びていない。color は児童というイメージがまだ根強くあると思われる。今後も積極的に広報していき、さまざまなケースの相談に乗ることができるようにする。
②障害児相談支援事業	
契約目標人数： 200人(継続も含む) ・事業所見学時に、家族のニーズを十分に聞き取りどのようなサービスや支援が必要であるか整理することができるようにする。また、相談支援の仕組みについても家族に分かりやすく説明する。 ・定期的な家族へのモニタリング、事業所や所属園・校の状況の確認を行うことで必要なサービスの調整を行うことができるようにする。	契約人数： 193 人 ・定期的なモニタリングはすることができたが、事業所への訪問は不十分であったと思われる。家族からの聞き取りだけでなく、直接支援の場面も確認していくことで家族や本人のニーズの整理をしていくことができるように心がけていきたい。

(3) スタッフ研修(さくら内会議)

月1回(第2週) ・月に1回、相談員で情報を共有することで困難ケースへの対応、関係機関への対応を統一する。 ・また他事業所の相談員とも情報共有することでより丁寧なプランを作成できるようにする。 ・外部研修へも積極的に参加し知識を高めていく。	・月に一度の会議は継続することができた。定期的に会議を開催することにより日常の会話だけでは十分に共有できていないことや支援の方向性を確認することができた。
---	---

(4) 関係機関連携

スクラム会議 600回/年 実施予定 ・スクラム会議の頻度については、個々に応じて調整していく。家族や関係機関の不安が軽減できるように課題を整理し、役割分担ができるように進行する。 ・感染症対策も十分に行い、必要に応じオンラインでの会議も検討する。	428 回(就学前:回/就学後:回) ・スクラム会議については、家族や所属園・校からのニーズに応じて開催することができた。反対に会議の回数から学校現場の負担になっているという意見が挙げられている。また、オンラインでの会議のニーズも園からあがっているため検討していきたい。
--	--

4. そらのいろ そらのいろ・くるーる

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
そらのいろ	月～土曜日	7:30～18:30	15名程度
そらのいろ・くるーる	月～土曜日	7:30～18:30	15名程度

(2) 各事業目標（契約者数 そらのいろ：98人 そらのいろ・くるーる：88人）

①放課後利用	
レクリエーションや工作などの活動の種類を増やし、ルールや手順など誰が見ても分かる手立てを作成し、子どもたちが自立的に取り組めるようにしていく。	個々の能力に応じた段階の工作を提供することで、自立的な作成につながった。レクリエーションは手立てのルールに沿って取り組もうとする姿が見られた。個々の興味関心を把握し、それに応じた内容を提供することで、参加してくれる人が多かった。そらのいろ単独での利用が減ってきている。
②土曜日、長期休暇等利用	
新型コロナウイルスの影響により外出できにくくなっているが、安全に配慮しつつ外出したり、さまざまな社会経験を積んだりすることができるようにする。	外出の予定も立てていたが、コロナにより、ほとんど利用できなかった。敷地内でできる活動を充実させたり、色々な公園に行き、体を動かして遊ぶことに重点を置いた。長期休みの利用は少し多くなっている。
③送迎利用	
送迎の場所、危険な箇所、対応方法などの情報を共有し、安全に送迎する。 送迎の利用や変更、伝達ミスがあるので、やり方を統一しミスがないようにする。	気持ちの崩れなどによって、車に乗るまでにトラブルがあったり、車に乗ってからトラブルになることがあった。療育とも情報を共有し、対応方法をスタッフ間で共有し、安全な送迎につながった。 送迎の予約や変更追加をシステム化することで、ミスが減った。

(3) スタッフ研修（そらのいろ内会議）

隔週（2回／月）	
そらのいろとみずたまで合同会議を実施し、支援方法について検討する。みずたまで支援している方法等をそらのいろの活動でも生かすことができるようにする。	療育での支援の方法や評価方法を統一することで、落ち着いて過ごせる場面が増えたり、見通しが持てるようになり、落ち着いて過ごせたり、切り替えやすくなったりすることに繋がった。

(4) 関係機関連携

スクラム会議 10回程度	
スクラム会議に参加し、関係機関との情報を共有することで、そらのいろ内での支援方法に活かしていく。	参加できていないスクラム会議でも情報を共有することで、そらのいろでの役割を明確にし支援することができた。放課後スクラム会議のことが多いので、参加しにくいですが、できる限り積極的に参加していきたい。

5. レイユール(たかはし発達障害者支援センター・相談支援センター さくら)

(1) 営業日・時間

	営業日	営業時間
レイユール	月～金曜日	9:00～17:00

(2) 各支援目標

<p>①保育・教育</p> <p>・年2回開催される園での情報交換会に参加し、園での状況を確認する。会の目的を学校にも広め、学校での開催に繋がる様に働きかけていきたい。また、学校等へ訪問し、児童の様子や家庭の状況等を確認した上で、支援方法等を検討していく。また、不登校児への支援、虐待ケースへの支援については、児童相談所等と連携し、継続的な支援を行う。</p>	<p>【結果】18歳未満 2671名(うち発達1345)</p> <p>・園での情報交換会は継続して参加できており、支援方法の振り返りや評価を園と行うことで次への支援に繋がっている。</p> <p>(小学校)</p> <p>療育につながっておらず、学校(通常級)と家庭だけの繋がりが少ない児に対しては、見落とされているのが現状である。教育委員会に情報交換会の必要性や目的を今後伝えていきたい。</p> <p>(中学校)</p> <p>小学校高学年から中学生に掛けて不登校になる児(通常級の生徒)が増えて来る。不登校児への支援にも関わることができてきている。</p> <p>(高校生)</p> <p>義務教育が終了となることもあり、中学校から高校への支援の繋ぎの難しさがある。高校へもスクラムの体制について周知していきたい。</p>
<p>②就労・成人期</p> <p>・定期的に本人と面談を行う。本人のニーズを確認した上で必要な機関と情報共有しながら就労・生活等の支援を行う。</p> <p>・引きこもりのケースについては、地区保健師や民生委員等地域と連携し、関わっていく。市内の引きこもりケースの減少につながるようにする。</p>	<p>18歳以上 3842名(うち発達2858)</p> <p>・必要に応じ面談を重ねることにより、本人のニーズ、障害特性を整理している。今後、手帳の有無、診断の有無に関わらず、様々な相談への対応を求められてくるため、より関係機関の連携がより重要になっていくと感じている。</p>
<p>③その他</p> <p>・総合相談センターについて周知できるように情報提供していく。年齢、障害種別に関わらず相談を受けられることができる体制を整えていく。障害特性に配慮し、相談に対応していく。</p> <p>・医療機関との連携、情報共有</p> <p>・I型に向けての高梁市との検討。</p>	<p>・本人、家族からの直接総合相談センターへ連絡し相談されるよりは、関係機関からの紹介によって繋がるケースの方が多かった。また、園や学校への周知もこれからであるため、次年度も総合相談センターについての周知にも力を入れていきたい。</p> <p>・医療機関との連携については、本人さんの承諾を得られることが増え、昨年度に比べ今年度は、医療との連携や情報の共有がスムーズに行えることも増えた。</p>

(3) スタッフ研修(センター内会議)

ケース検討会議 1回/週	
<ul style="list-style-type: none">・ケース検討会議では他事業所と情報共有を行う。・県や市主催で行われる研修等にもできる限り参加する。(コロナ禍のためリモートでの研修も検討)	<ul style="list-style-type: none">・ケース検討会議で、ケースについての方向性や対応方法等検討するように努めた。しかし、それぞれの法人の方針もあり4統一出来にくいこともあった。・外部の研修は、リモートでの参加が主であった。

(4) 関係機関連携

スクラム会議 140回/年 実施予定	スクラム会議 回
<ul style="list-style-type: none">・関係機関と連携するため、スクラム会議を定期的に行っていく。成人期において、スクラム会議が定着するようにする。	<ul style="list-style-type: none">・移行支援会議(小学校⇒中学校へ 支援学校⇒職場へ等)を行った。また、関係機関と定期的にスクラム会議を行うことができた。・職場とのスクラム会議の開催も行った。問題が起きてからの開催になったケースもあり、順調に行っている時程スクラム会議を開催していく必要があると感じた。

6. まーぶる

(1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
まーぶる	月～土曜日	7:30～18:30	8名程度

(2) 各事業目標 契約人数:4名(夏季休暇中のみ 8名)

①放課後利用	【結果】
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が放課後の活動を楽しみに帰って来てくれる様に活動の内容を検討し、わかりやすく提示する。月1回まーぶる会議(子ども主催)の開催し、意見を取り入れることができるようにする。 ・子どもへの支援にとどまらず、家族の状況を確認し相談に乗ることができるようになる。相談内容についてはケースに記載し保存する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日利用ではなく、保護者の仕事の都合や本人の都合に合わせて利用するケースが多くなった。 ・まーぶる会議については、人数が揃わないことが多く月1回の開催ができないことが多かった。そのため、個々で子ども達に活動について意見を聞くようにした。 ・虐待ケースもあり、子ども未来課と連携しながら対応した。
②土曜日、長期休暇等利用	
<ul style="list-style-type: none"> ・事前に活動アンケートを行い、土、長期休暇時の活動を検討し、計画をする。長期休暇のみ利用される保護者や子どもに対しても、利用前に必ず見学とまーぶる学童の約束やルール等の説明を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みのみ利用児に事前に見学・説明を行った。事前に活動内容が分かっていることで、こども達もとても楽しみに学童を利用することができていた。コロナ禍で活動にも制限がある中、子ども達とスタッフで色々な遊びや活動をして楽しむことができた。
③送迎利用	
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、徒歩であるが、どうしても理由がある場合に限り、一時的に送迎を行う。 ・土、長期休みは保護者の送迎で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の送迎依頼はなかった。 ・土、長期休みについても保護者送迎で行ってもらった。

(3) スタッフ研修

隔週(2回/月)	
<ul style="list-style-type: none"> ・その日の会議に参加し、まーぶるの子どもについても対応方法を検討する。 ・高梁市の実施する研修や学童に関連する研修に積極的に参加し、他の学童スタッフとも情報交換ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に話し合いをすることができた。 ・コロナ禍ではあったが、高梁市の学童スタッフ向けの研修に参加、また、リモート開催での研修を受けることができた。

(4) 関係機関連携

<ul style="list-style-type: none"> ・所属する学校や担当課とも情報を共有し、連携を図っていく。 ・療育を利用している児童については、スクラム会議への参加をしていく。 ・療育利用ではない児童については、保護者や学校と連携し情報の共有を図っていく。 ・他の学童との情報交換等も行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待ケース児の生活の様子について気になることがあった場合、こども未来課への連絡し対応や情報の共有をすることができたが、学校と連携が図れておらず、学校のみが把握している場合もあった。学校との情報の共有や連携をどの様にしていくかが次年度の課題であると感じた。
---	--

7. 学習支援塾 さいさい

利用人数 10人/日(延べ 450人/年)	登録人数 13人 (延べ 351人)
・学習面に課題のある子どもたちが、療育等と並行しながら、学習で苦手な点を補う場として継続する。 ・1クラスを2~3人程度で実施できるようにする。	・さいさい利用によって勉強意欲の向上や学習時間を増やすことのできた児童が安定して利用することができた。指導員の補充が課題。

8. その他 法人事業

(1) 各事業目標

①スタンプラリー	
利用目標人数 70人	実績 0人
6月5日開催予定⇒中止	中止
②夏祭り	
利用目標人数 200人	実績 0人
8月7日開催予定 感染症の状況により、開催は判断	中止
③Winter Festival	
利用目標人数 200人	実績 0人
1月8日開催予定 感染症の状況により、開催は判断	1月6日時点まで開催予定で準備していたが、高梁市内での感染症報告を受け、中止となった。出店協力の企業及び事業所には状況説明と謝罪を行った。
④一時預かり事業 いろいろ	
利用目標人数(延べ) 225人	実績 117人 登録人数 44人
今年度は感染症防止の観点から、委託金が増えている。職員配置上、週2日~3日程度の開所が望ましいため、利用日数を大幅に延ばせない課題はあるが、利用登録は徐々に増えつつある。昨年度定期的に利用していた児童が今年度入園することから、昨年度よりも利用人数が減る恐れ。新規利用者獲得のため、子ども未来課・健康づくり課とも連携し、登録者を増やす。	昨年度と比較し、利用者数が減少している。一方で登録利用児の弟・妹やその身内等、口コミを通じての登録が増え、便利良く活用してくれている印象の家庭も見られるようになった。現在、登録の年齢は1歳半~としているが、状況に応じて1歳未満の子供も受け入れを行った。家庭支援の必要なケースもあり、来年度は登録年齢を下げることも検討したい。
⑤ スタッフ研修(内部)(1~2回/月) コミュニケーション研修 ケース検討	月に2回程度開催することができた。支援の内容の研修のみでなく、スタッフ間のコミュニケーションを強化するための研修を実施することができた。
・自閉症研修(1回/2カ月) 川崎医療福祉大学 重松孝司先生へ依頼 ・外部講師研修 家族支援、地域支援 当	自閉症研修は概ね2ヶ月に1回開催することができた。(状況によりオンラインも活用) 保護者・支援者向けに当事者、精神障害、ひきこもりなどさまざまな分野での研修に取り組むことができた。
⑥ 外部研修・講習会 ・医療的ケア児研修 ・発達検査 等	・医療的ケア児研修 井上 ・強度行動障害研修 柏葉 井上 大石 井脇

<p>⑦ 相談支援・児発管研修</p> <p>児発管更新研修:川上・田井・瀬戸川</p> <p>児発管実践研修:柏葉・池田</p> <p>相談支援:柏葉・高田</p> <p>児発管基礎研修:山田</p>	<p>児発管更新研修:川上・田井・瀬戸川</p> <p>児発管実践研修:柏葉・池田</p> <p>相談現任研:川上・田井</p>
<p>⑧ ひきこもりサポートセンターいろは</p>	<p>10月より引きこもりサポートセンターを開設している。高梁市でまだ取り組めていない支援体制についてサポートセンターを設置することにより、高梁市が検討するきっかけになっている。</p> <p>具体的に10名程度ケースの相談も上がっている。保健所や健康づくり課などと情報共有しながら支援にあたっている。</p>

(2) その他

<p>自発的活動支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアトレ及びステップアップ講座 ・視察研修 <p>保護者を対象に就労先・就労移行支援等の視察研修を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発事業(自立支援協議会とも連携) 	<p>【精神障害支援研修】</p> <p>→精神障害の種別・要因・支援方法等、具体事例と政策について。成人支援を行うにあたり、地域理解や就労のタイミング等、これまで経験のないことや知識不足を改めて感じた。今後も継続して研修を行う。</p> <p>【ペアレントトレーニング】</p> <p>→内容は例年と同様、子どものほめ方や行動観察について。療育利用を開始したばかりの保護者参加もあり、保護者交流としても良い機会となった。家庭で取り入れやすいツールを用いた支援方法を取り入れ、好評を得た。今後も継続。</p> <p>【ペアレントトレーニングステップアップ講座】</p> <p>→中止(新型コロナ感染拡大防止のため)</p> <p>【発達支援講習会・思春期(支援者向け)】</p> <p>→オンライン研修会。思春期の環境の変化や本人の心身の変化等、様々な変化に対する教育が必要であること、幼い時期に許容されていたことが成長とともに制限される場合があることを本人の理解に応じて伝える必要性を学んだ。</p> <p>【発達支援講習会・思春期(保護者向け)】</p> <p>→オンラインと会場によるハイブリッド研修会。当事者の瑠璃真依子さんとその母親に中高生時期の様子等をお話し頂いた。子どもがこれから思春期を迎えるという保護者が参加し、お互いより具体的な不安等を話しやすかった様子。良い交流の機会ともなり、今後も継続していきたい。</p>
---	--

<p>親の会支援(ぶどうの会)</p>	<p>コロナの感染状況により開催できない月もあったが、保護者同士で意見交換をする場として有意義な場となった。参加するメンバーは概ね同じであるが、その時々不安を感じていることを伝えあうことができている。</p>
<p>高梁市自立支援協議会(児童部会、就労部会)</p>	<p>自立支援協議会では、児童部会(児童発達支援センターくるーる)、就労部会(たかはし発達障害者支援センター)に参加している。 コロナ禍であり十分に活動できていないところはあったが、市の課題を整理する場になっている。</p>